

キャラバンサライ・ラウンδροム・ワークショップ

(地域おこし協力隊活動報告)

町では、国の総合戦略に基づき、平成27年度から平成31年までの5年間で計画期間とする地方版総合戦略を策定するとともに、その初年度となる今年度から地方創生を実現するための事業に取り組んでいます。

その事業のひとつとして、地域おこし協力隊の企画提案による流動創生事業「キャラバンサライ・ラウンδροムトリップ」事業が9月20日から同30日の11日間にわたり実施されました。この間の行程は、8都県、全走行距離約2,000キロに及びました。今回、その活動状況を紹介します。

キャラバンサライ・ラウンδροムトリップとは

流動創生という考え方に賛同する人や興味を持つ人を全国に募り、参加者がワゴン車に乗り込み地域を巡回し、各地での人との出会いや生活に触れることにより、まちづくりの成果や課題を学び、これからの自分たちが地域の中でどう行動すべきなのか、ひいては地方創生の方向性を考えようとする取り組みです。

9/20 南越前町



街道浪漫今庄宿にて出発式。南越前町の皆さんに温かく見送られ、搭乗者一同とてもありがたい気持ちになりました。

9/20~21 富山県氷見市



氷見市地域おこし協力隊の拠点を人が集まれる場として改修支援活動。重労働でしたが、みんな楽しく作業することができました。

9/21~23 山形県川西町



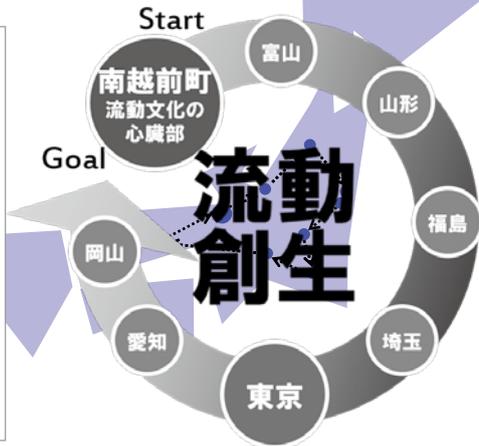
空き家改修支援活動。川西町も空き家が多く、若者が地域内外から集まり共同で空き家を改修していました。

9/30 南越前町



2,000km超の旅を終えて南越前町に到着。実のある旅に達成感を味わうと共に、温かく迎えて頂き感謝の気持ちでいっぱいでした。

行程・訪問先と事業内容



9/23 福島県南相馬市



東日本大震災で被災した町に若者が帰ってこられるように、若者が働きたいと思う就労の提供と同時に地域の課題にも応える地域づくりをされていました。

9/28~30 岡山県西粟倉村



空き家改修支援活動。西粟倉村では若者を積極的に受け入れ、若者がおしゃべりな宿泊施設を開業するなど、全国的に注目される地域となっていました。

9/23~25 福島県川内村



空き施設を活用した地域コミュニティの場を創出。情報発信により、多様な方を巻き込んだプロジェクトを進めていました。

9/27~28 愛知県東栄町



地域資源である鉱山を活かしたツアーを体験。国内で採掘されている鉱山に入れるのはここだけとのことで、「そこにしかないこと」は価値になると再認識しました。

9/26 東京都



青山ファーマーズマーケットでは、以前南越前町に滞在された方にもお手伝いいただき、当町の特産品をはじめ、滞在先の特産品を販売し大好評でした。

9/25~26 埼玉県東松山市



農作物の集出荷作業の支援は、朝4時半起床でしたが、新鮮な野菜を収穫することで楽しく農作業することができました。

地域おこし協力隊への

一問一答



この企画を考えたきっかけを教えてください

荒木 旅は私のやる気之源です。新しい人や景色に出会う度に視界が開けて、力が湧いてきます。私だけでなく他にも旅人氣質の人はいて、そんな生き方ができれば世の中にも地域にもきつとプラスになるはず、まずは形にしてみようと思いました。

実際にやってみて良かったことは何ですか？

荒木 たくさんの人と人、人と地域の繋がりをつくれたことです。全く異なる立場の搭乗者同士が繋がり、縁もゆかりもなかった地域と搭乗者が繋がりました。友達が増えると考え方や行動の枠が広がります。そのきっかけをつくれたかなと思います。



地域おこし協力隊 荒木 幸子

逆に課題だと思ったことは何ですか？

山岸 いろんな地域を知って地域との相性を感じてもらおうこと等が企画の目的のひとつでもあります。やはり1〜2泊程度では、あくまで「お客さん」であり、そこに暮らした上で知る地域との相性を感じるには日数も短いなと思います。

地域を巡ってみて感じたこと

他の地域で印象に残った出来事がありますか？

山岸 岡山県西栗倉村では移住者が移住者と呼んでさまざまな事業が立ち上がっています。地域おこし協力隊を地域全体の奉仕者として活動させるのではなく、開店スペーをを整え起業してもらおうなどとして、それが地域の活力になっていました。

では他の地域と比べてみて、南越前町の課題だと感じたことはありますか？

荒木 まちづくり活動にビジネスや戦略といった観点が薄いことです。流動創生も現時点では文化活動に近いです。収益性を全面的に打ち出すのも問題ですが、継続性を考える必要は必要なのだと思います。

逆に他の地域と比較しても南越前町の「これは自慢できる！」と思ったことはありますか？

山岸 「懐の深さ」ですね。



地域おこし協力隊 山岸 達也

地域の皆さんが我々を含め「よそ者」を気持ちよく受け入れ送り出して下さることや、役場の仕事として前例がなく常識では考えられないような事業を理解し応援してくれる。その「懐の深さ」は他地域と比べても自慢でき

るものです。

「これから」

様々な地域を巡った今回の経験を活かして、やりたいことはありますか？

荒木 今私たちは、地域づくりにより等賞がないこと、人によって合う地域・合わない地域があることを身をもって感じています。優劣で判断しがちの地方創生に対し、地域は多様であっていいんだ、勝ち負けじゃないんだと、今回得られた知識を活動に活かしていきたいです。

今回の企画を実施して得た成果と課題を踏まえ、サウンドトリップは今後どのように展開していくのでしょうか？

荒木 南越前町の人々が他地域を訪れて見聞を広めたり縁を繋いだりするお手伝いや、今回繋がった地域や人との縁を継続しつつ、新たに興味を持ってくれた人や地域と繋がる等、旅の仲間と旅の宿(地域)を増やしていけたらと思っています。

山岸 昔から南越前町が人と文化の交差する地であるように、地方との関わりを考える人と受け入れたい地方、または非永住型のよそ者を受け入れようとする地方同士をつなぐ結節点の役割を果たしていても良いのではないかと思っています。

流動創生とは

都市―地方の新しい人の流れをつくることにより、様々な地域と人々が出会い、共感し、協働する機会をつくります。

また、南越前町への来訪、滞在、居住又は定住を促し、地域内外の住民が交流することによって地域の活性化を創出し、日本全体で、人々が自由に地域を行き来する中で、一人ひとりが主体的になれる生き方を、南越前町や様々な地域の中で見出そうとする取組みです。



9/30 南越前町到着後、副町長に活動を報告

地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。